

現場着工から2年 ～東京国際空港(羽田空港)の新しい滑走路(D滑走路)～

記者発表資料

我が国航空ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占めている東京国際空港(羽田空港)において、年間の発着能力を30.3万回(H19.9時点)から40.7万回に増強して、発着容量の制約の解消、多様な路線網の形成、多頻度化による利用者利便の向上等を図る再拡張事業を進めています。その中核となる4本目の滑走路(以下: D滑走路)の整備を国の直轄事業として、整備を促進しているD滑走路建設工事は、平成21年3月29日をもって、平成19年3月30日の現場着工から2年が経過しました。

「埋立部」においては最初の一年目は海底の軟弱地盤の地盤改良工のみの実施でほぼ経過し、平成19年12月より埋立護岸の築造、平成20年9月には外周護岸(約4,500m)が概成しました。引き続き、護岸内側に中仕切堤を築造し、平成21年3月現在、護岸と中仕切堤の間の管中混合固化処理工や、中仕切堤内側の揚土にも取りかかり、埋立工事が本格化しています。(埋立部の進捗率: 約60%)

また、「接続部」では、平成21年3月現在、基本構造となる鋼管矢板井筒護岸のうち頂版コンクリート打設等の上部躯体工を行っています。

「栈橋部」および「連絡誘導路部」では、平成20年1月に滑走路の土台となるジャケットの第1号基を据え付け、平成21年3月現在、栈橋部で125基(全198基)、連絡誘導路部で29基(全40基)を据え付けています。(ジャケット進捗率: 約65%)

現場着工3年目となる平成21年度は、「埋立部」では揚土の本格施工、「接続部」では上部工構築、「栈橋部」「連絡誘導路部」では引き続きジャケット据え付けを進め、いよいよ滑走路島の全容が姿を現します。現場着工から2年にわたり、365日24時間施工という厳しい工程の中で着実に建設を進めてきたD滑走路ですが、今後も引き続き、平成22年10月供用開始に向けて最速で施工を進めてまいります。

全体進捗率…約60% (平成21年3月30日現在)

平成21年3月30日(月)

国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所

同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所
D滑走路プロジェクト推進室 あかしま たけうち かじわら
赤嶋・竹内・梶原
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階
電話 03-5756-6573
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

工事進捗状況



(平成 21 年 3 月 15 日撮影)

